

評価委員の皆様から（総評）

○長尾 ありがとうございます。今日の発表のなかで気付いたことがありました。自分も沖縄でサテライト校に関わっている者として、やはり PDCA がしっかりしているなということを感じています。

平成 21 年度から関わっており、カリキュラムをしっかりと見直してきている。

そのカリキュラムに合わせて、テキストを自校で作成すると。そのときにも大変短期間でつくられてきたので驚いたのですが、今回また改定をして新しい課題に合わせて学生を支援していくということ。

また本学の特徴であると思いますが、先生方が一人ひとりの学生に対してすごく関わりを持っておられる。その関わりが、この学生が社会に出たときの人との関わり、コミュニケーション能力がすごく発達してくることにつながるのではないかと考えています。

今後は、学生が現場に出て、その後、どのような功績を残していくのか、追跡調査が必要なのかと個人的に感じています。

教育委員会にいる立場としては、学校現場にたくさん学生を輩出していただいて、その学生と教員また教育委員会がどのように関わっていくかという逆の課題も自分のなかにはいただいたような気がしています。今後とも本学と関わって、学生、さらに教員と関わって教育の課題を解決していけたらと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

○司会 ありがとうございます。それでは生田様、お願いいたします。

○生田 各学部からご説明いただき、全体として大変よく分かりました。私は入口と出口が、大学にとっては全てだと思っています。真ん中は、それで評価されてくるのだろうということですので、まず出口が 98%というのは、おそらく、これ以上に上から



ない最高の状況だろうと思います。

その意味では、社会がここの卒業生を求めているということが、一言で十分に説明できると。この高い就職率、つまり社会に対して責任を十分に果たしていると、これを今後どう維持していくのか、それから質的にどうやっていくのか。たぶん、そのところが先生方の、これからの課題になろうかと思いながら聞かせていただきました。

ほぼ入口で、高校から入って来た学生に対して手厚い手当をしていく。それぞれの学科に入って来た学生に対して、先ほど長尾先生のお話にもありましたが、テキストをきちんとつくって基礎的な力を身に付けていく。そして、専門的なところにつなげていくというカリキュラムの体制、先生方は大変だろうと思いますが、全学を挙げて、全教員を挙げて取り組んでいるだろうと。それでないと、なかなかこうはいかないわけです。そこが徹底してきているなと思いました。

さすがに、後藤学長以下一丸となって、これをおやりになっている先生方の集団を、私は目に見えるようなかたちで聞かせていただきました。とりわけ、最近、文部科学省もいわれておりますが、学修時間の確保は、いろいろなことをいうわけですが、最終的には学生の質が問われてくるわけです。

それに対して夏休み・春休みをどうやるか、具体的におやりになっている。これはやっぱりすごく大事で、意図的に組み入れておられるということ、また保護者にも、この点についてご理解をいただいているということにつきましても、きちんとした目配せができていたと思います。

この 98%を維持しながら、さらにどうやっていくといいのかということですが、なかなか難しい問題があると思います。先ほど言った PDCA のサイクルがあるわけです。これは（配布資料の）後ろのほうに各学部・学科ごとに出ております。達成目標とチェックリストを対応するかたちで、形式上はきちんと整っています。

ですから、10月に受けられる認証評価は、おそらく大丈夫だと思います。このとき、どのぐらいのエビデンスをここで出すことができるのかということも、今後のポイントになってくるのかと思います。

それで昨年度も、ちょっと△印を付けて、最初のほうで富士先生から発表いただきましたが、そこで出ていますなかでルーブリック、ポートフォリオ、これは言葉が先行していますが、大学できちんとできているところは、そんなになくはないと思いま

す。ルーブリックあるいはポートフォリオというのは、義務教育段階ではかなり実践的におやりになっているわけです。その意味で、ぜひルーブリックあるいはポートフォリオを、大学教育ベースということではもう少しきちんとできて、世の中に問うことができるのではないかと思います。このことができると、さらにいいかなということを楽しんでいます。

PDCA サイクルがあります。これは私も大学でかなりやっていたのですが、PDCA サイクルでもチェックして改善するとなると、どこをやるのか。現在ある体制をよくしていくというのがあります。例えば、設定した目標そのものが、実はどうなのかというところまで検討に及ぶのか、それとも評価項目が、評価のモノサシがどうであるのかというところにも及ぶのか。そのへんも正解はないわけですが、ぜひ知恵を出してやるなかで、おそらくよくなっていくのだろうと思っています。

これだけ就職率が高いわけですから、人材養成とカリキュラムの実態が、かなり一致していると、これは、ぜひ自信を持って、今のものをさらに発展させていただければと思っています。以上です。

○司会 ありがとうございます。続きまして、健康栄養学科担当の福富様、お願いいたします。

○福富 健康栄養学科と申しますと、

やはり先には管理栄養士の国家試験があるわけです。そう申しますと、特徴的な教育がなかなか難しく、どうしても総合的な教育が必要になってくると思います。そして、先ほどからお話がありますように勉強時間とか、夏休みの利



用とか、そういうふうになってきますと、一部には締め付けが多いと、やる気がすぐ削がれてしまう学生もなかにはいるかと思います。しかしながら、合格率が年々上がってきて、平成 25 年度は 98.9%と素晴らしい成績だと思います。

見ていますと、ここにありますカリキュラムのポリシーがしっかりしていること、アドミッションポリシーで健康とか、そういうことに関するものがしっかりするこ

とによって、学生のやる気がだんだんと上がってきている。病院実習とか、ガンバレご飯という実践に即した面を見せることによって、学生のやる気が維持されるだけでなく、GPA パターンを見ても、やる気をなくすというよりは上がってきているところにつながるのは、素晴らしいことではないかと思います。

将来的に、学生の就職先が一般企業であったり、給食センターや病院とかいろいろあるわけですが、最近、テレビなどを見ていますと、小保方晴子さんのような科学系に興味を持った、いわゆる「リケジョ」の人が増えているようです。こういう全てをおいて国家試験の受験を手掛ける中で機会がありましたら、そういうリケジョの教育にも力をいただいたらと思います。以上です。

○司会 ありがとうございます。続きまして、貝谷様、お願いいたします。

○貝谷 貝谷でございます。大変素晴らしいプレゼンテーションを見させていただきました。私は県の高等学校PTA 聯合会の代表できましたということで、保護者の立場でお話し申し上げます。

保護者として、自分の子どもたちが学校を出たあとの「自立＝資格」

です。資格が取れる、そして就職。この構図を満たしているのも、とても素晴らしい学校だなと思いました。健康栄養学ということでお話しさせていただきますと、栄養士のニーズが非常に多くあると感じています。病院、学校、企業、そして老人福祉施設の増加によるニーズも大変期待されています。

また、学校の子どもたちの管理として、GPA (Grade Point Average) を導入して、しっかりしているなと判断させていただきました。

入学前の学生に対して、どのような資格が取れるのかなど、学校もホームページなどの広告とか、親たちにも分かるようなピーアールしていただけると、学校にとっても有益なことになるのではないかと思います。

栄養士や調理師を養成していく過程において、技術や資格はもとより日本伝統の調理に対する技術、または料理の歴史、美術的センスなども養っていけるといいかなと思います。



私は、今朝も病院で検食をしてきました。やっぱり病院の食事は味気なかったです。苦しんでみえる患者さん方に対して、多少なりとも料理のほうでも安らぎを与えられるような栄養士さんができるといいなと思っています。糖尿病患者さんですと、糖質や塩分など、カロリー計算が難しいと思いますが、そういうところも考えていただければいいなと考えて検食してまいりました。ありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。それでは生活科学専攻につきまして藤木様、お願いいたします。

○藤木 失礼いたします。今年度からカリキュラムの変更で、生活科学のほか家庭科の教員養成をメインにというお話を伺いました。私のイメージのなかで、岐阜女子大学出身の家庭科の先生は県内に大勢おられます。私もベースは家庭科教員ですので、同僚に数多くの先生方と一緒にしてきました。



本校、岐阜城北高校も12名の家庭科教員のうち3分の1が、岐阜女子大学の卒業生の方々です。過去も含め、いろいろな先生方と接するなかで、岐阜女子大学の良さを本当に背負っていらっしゃるなど。それは何かというと、丁寧な一人一人の指導を受けられた結果、諦めない、根気よく丁寧に指導されるという姿を、どの人からも感じ取っています。

先ほど現役で合格というのを聞いていますが、その学生さんも専門高校から岐阜女子大学に入学されたということを聞いています。それぞれが大学に入ってから一生懸命に勉強されたと思います。かつて勤めた学校の講師で、大学を出た学生そのままからという方が管理栄養士を目指して勉強しましたと。高校は進学校から岐阜女子大へ行った人でしたが、こんなに勉強をしたことがないというぐらい、大学で勉強しましたというお話がありました。それが一人だけ勉強したのではなくて、先生方のご指導と一緒に学ぶ仲間がきつとおられたのかなということを感じました。そういうことを今後も大事にさせていただけるといいなと感じているところです。

やはり技術力も必要です。昨年度、城北高校の前任校長から家庭科の教員の技術

力が低いというお話があったのだらうと思います。これは現実です。でも、岐阜女子大学の卒業生の方が技術力が低いわけではないと思っています。これは世の中全般、今は家庭において、そういった体験を誰もがしていません。それはどなたもが周知のところですよ。

これが衣生活の分野だけでなく、食の分野でも、保育の分野でも、子どもとの関わりであるとか、高齢者の関わりとか、とにかく体験が少ないです。といったところに気付かれて、いろいろなプロジェクトをしておられると。これは高校現場でもいろいろなことをやるのですが、ついやりっ放しということがあります。しかし、PDCA サイクル、本当に大事なところですが、日々の仕事に追われてしまって、それがなかなかやり遂げられない現実もあるのかと思います。といったことで、岐阜女子大学の良いところをぜひ残していただきたい。

また、本当にうれしかったのは理事長さんからの提案もあって、ちょうど1年前です。「伝統文化裁縫コンテスト」という提案をいただきました。ご相談をいただいたわけですが、私も長くファッションに関わってきましたので、そのときに「ちょっと待ってください。伝統文化ですか。裁縫ですか」と。この二つのキーワードが、どうしたらいいのだらうか、でも杉山理事長さんにいろいろお世話になっております。そういったなかで思いあぐねるということが、ひしひしと伝わってきましたので、何とかしなければという思いで、いろいろな日本のよさを、中学生・高校生にも知ってもらおう。もちろん大学生の方もそうですし、こうなったら「ソーイング」という言葉ではなくて、「裁縫」という言葉にこだわらなければといったところからスタートして、今年度、無事に1回目をおこなっていただけました。岐阜県の先生方にも、生徒にも、これは今後も継続して力となっていくものではないかと思っています。

今、本当に人との関わり、コミュニケーションが大事というなかで、何よりも今の子どもたちは、「耐性」という言葉があるのですが、我慢すること、最後までやり抜く力、「生きる力」(新学習指導要領)ということで、文部科学省からいろいろと出てきているわけですが、それをやり抜くといったところ、おそらく、こちらの大学でいろいろなサポートをされていて、皆さんがやっておられるのではないかと思います。

先ほど、貝谷さんからお話があったように、岐阜女子大学は地元の大学ですが、

いろいろなところで全国各地から学生さんが集まっていっしょということも聞いています。それもとても素晴らしいことだと思いますが、地元の学生がもっともっと増えるような大学になるといいなと。岐阜女子大学が岐阜になくってはならない女子大学であるという親近感、存在感を高めていただきたいなと願っています。

勝手な自分の感想で申し訳ありませんけれども、三十数年自分の教え子も、こちらにお世話になって頑張っている子たちもいます。そういうところで、やっておられることが、まだ広く皆さんに知られてないのではないかと感じたりします。ぜひ地元をしっかり根を下ろした大学であることを、周知されるように、お願いできればと思います。

私どもの高校は、いろいろな学部の専攻の先生方にお世話になっています。またよろしく願いいたします。

○司会 ありがとうございます。それでは住居学専攻につきまして田頭様、お願いいたします。

○田頭 本日は、どうもありがとうございました。錚々たる先生方のなかで、私のような素人が一言というのは非常に恐ろしゅうございますが、気になったというか、気が付いた点を幾つかお話しさせていただきます。



まず住居学専攻の育成する人物像として、「住む人の満足する住環境を創造できるスペシャリスト」ということが挙げられています。この建築分野におきまして「スペシャリスト」といいますと、やはり1級建築士、2級建築士ということが最終的なゴールということになるかと思えます。特に最近、本当に建築士の試験は難しくなっています。私どもの会社でもなかなか通りません。大学院を出た人間でもなかなか通らないという本当に難しい資格になっています。

そのなかで卒業生のなかから1級建築士の合格者もいっしょるようですし、まずは在学中に2級建築士を目指すということを目指していっしょる。それは非常に素晴らしいことだと思います。頂いた資料を拝見しますと、やはり数学の基

礎力の部分のところと、断面図・立面図に関して、立体的に把握するということに苦勞しておられるかと思えます。

特に建築設計といいますと、三次元のを二次元で表現することになるものですから、その難しさについて、いかに教えるかということが問題になろうかと思えます。私には、その回答や考えを持ち合わせておりませんが、先生方プロの方がいらっしゃいますので、そのへんを少しでもやっていただければと思えます。

そして、建築設計というか、技術の分野はどんどん進みます。スペシャリストになられて、社会人になってからでも、長い間、専門分野に就いてずっと究めていくという姿勢を企業としては求めるということかなと思っています。そのためにも、長い間にわたって自己研鑽を続けていくためには、ものづくりに対する情熱をいかに在学中に植え付けるかということが必要だと思っています。

その意味でも、今、やっていらっしゃる特徴的な保育実習室を実際につくってみるということ、トイレをリニューアルするという、実際の実習を通して達成感といいますか、学生の皆さんに自分たちが描いた図面が、実際のものになっていくための達成感を大事にさせていただくことが、長い間にわたるものづくりに対する情熱を育むきっかけになるかなと感じました。

私ども建築の世界は、一人ではモノはできません。多くの人間が関わることで、特にお客さまから、どういうものをつくりたいかという要望を引き出すこと、それから自分が考えたものを、実際につくる方々に、その意図を説明するという意味での、どの世界でも同じでしょうけれども、コミュニケーション能力というところが特に必要になってまいります。

どれだけ優秀な図面が描けても、その意図を説明できなければモノにはなりません。その意味でも、実際に共同作業でモノをつくりあげることも勉強方法になるのかと思いました。以上です。

○司会 ありがとうございます。それでは文化創造学専攻につきまして早川様、お願いいたします。

○早川 岐阜市教育長の早川でございます。まず岐阜女子大学の先生方には、理事長さんはじめ、岐阜市教育委員会の審議会等で大変お世話になっています。どうもありがとうございます。

今日、お伺いしましたが、いろいろな資格が取れるなかで教員への志向も、いろいろな場面で強く学生の皆さんがお持ちで、そのための状況も整っているようです。養成・採用・研修という教員ライフのなかで、今までは養成は大学で、採用と研修は教育委員会と



れていましたが、この発想はまったく変えなければいけないということです。私もそれが正しいと思います。

養成段階についても、教育委員会も意見をいい、採用や研修についても大学との連携を図っていくことが大事です。そうしないとロスが大きいので、そうあるべきだという点において、教員の資質向上に関する先進的な支援事業ということが書かれてございますが、教育委員会との連携をさらに深めていく必要があることは間違いないことです。いろいろご提言をいただければ応えていく余裕は持っていますので、よろしくお願いします。

そうしたなかで文化創造学部のご提案は、さすがデザインを専門とされる学部だけあって、大変素晴らしいプレゼンテーションだと思いました。特に、PDCAも先ほど来大切にされているというなかで、行動目標の最後4番目の「人に教えることができる」というのは、なかなか切り口としていい観点だと思いました。

私が一番興味を持ったのがiPadのことです。デジタル教科書や電子黒板は、私どもの市には、全部の教室に入っていて使っています。これは授業形態を根本的に変えるものでも何でもありませんが、ことiPadに関しては、これが学校現場にどういう影響を与えるかということは、それこそ反転授業だといわれています。本当にそれがいいのかどうかを含めて、これはかなり授業のありようを根本的に変える可能性がある。「教師が必要ない」などと、OECDでも言い始めていますから、世界の素晴らしいものとアクセスすれば、それでいいではないかと。

ただ、それを今の学校現場で、私どもはいろいろなニーズで予算要求をしています。最初は全部の学校になどと言っていたのでは、とても莫大な金額なので。小学校・中学校に40台ずつということで、モデル的に入れようというところで収めよう

と思っています。ところが、指導ができる先生がなかなかいないと。

文化創造学部では、これはご自分で買われて入るのですか。

○久世 学生が。

○早川 学生が買うんですよね。

○久世 ある程度、補助はいたしますけれど。

○早川 大学のなかに Wi-Fi の環境もあるのですか。

○久世 あります。

○早川 だったら岐阜女子大を出て学校の先生になる人は、みんな使いこなせるようにして出したらどうですか。それを学校現場は求めているのです。(iPadなどを)使いこなせる先生が岐阜女子大から輩出されるということは、非常に魅力的なことでウリにもなると思います。勝手なことを言わせていただきますが、ぜひ、そういうことを将来的にご期待申し上げたいということを申しました。どうもありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。それでは初等教育学専攻につきまして小関様、お願いいたします。

○小関 お願いします。自分は学校現場にいたとき岐阜女子大学さんは、本当にきめ細かな教育をされて、一人ひとりの学生さんに沿った教育がされているという印象を持っていました。今日は、あらためて、その思いを強くいたしました。



私から学校教育専修ということ
でいえば、昨年、ご指摘させていただいた教育課題の対応を早速されているということで、ありがとうございます。特に、いじめについては、昨年6月に「いじめ防止対策推進法」が策定されました。小・中・高、学校を問わずに、今後の大きな課題になってきますので、大学教育でも対応の一層の充実を図っていただければと思います。

教員の養成、小・中・高、あるいは就学前幼稚園の教諭を養成する学科ということで、どの都道府県も求める教師像を掲げています。大きく3点あるかと思いま

す。専門教科の専門性、広い豊かな教養。2点目として教育者としての使命、情熱、子どもへの愛情。3点目が人間性、コミュニケーション能力にもつながってこようかと思います。豊かな人間性や社会人としての良識。この3点があろうと思います。

特に小・中、あるいは就学前の幼稚園の教諭に求められることは、子どもへの愛情、人間性、使命感といったものがあろうと思います。求められる資質、これを1年間にわたって、あるいは大学院教育を含めて各段階でよく工夫をしながら高めていっていただけるカリキュラムを組んでいただいていると思いました。

あと全学年を通じて、主体的な学びに力を入れていらっしゃる、あるいは理論と実践の往還といったことも充実されているということで、教育実習、通常の教育学部以外の学校ですと、4年次だけということがあろうかと思いますが、1年次からワークショップ等での訪問、そういった訪問等も含めまして4年次での長期の研修・実習。そこまで計画的に、各年次に実践の場を設けていただいている。これは学生さんにとって、自分の適性を見ていくうえでも、あるいは実際に自分の理想を持って学校へ行ったけれども失敗してしまった。その失敗を次の実習では活かしていこうといったPDCA、学生自身のPDCAへつなげていけるものだと思います。

冒頭、杉山理事長さんの話にございましたが、最近は善悪の判断のつかない学生が増えています。これは岐阜女子大学さんに限らないことだと思いますが、小学校でも道德の教科化ということが、教育再生実行会議等で議論されています。この話とつながってくるのかと思いました。

学生が善悪の判断ができないのではなくて、その家庭、保護者にも問題があるのではないかということで、全学あげて親の再教育に取り組んでいらっしゃる。これは非常に大きなことで、これから小・中・高、教育委員会も含めて、それぞれの学校が取り組んでいかなければいけないことではないかと思いました。

その意味で、こちらがかえって勉強させていただいたという思いを持っています。感謝しております。今後とも静岡県でも学生がお世話になっていきますし、ここの卒業生も本県の学校でご活躍だと思いますので、今後ともよろしく願います。ありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。それでは最後に、富士学生部長よりご挨拶を申し上げます。

○富士 評価委員の先生方、本日は私どもの評価委員会に、ご出席賜りまして誠にありがとうございました。大変長時間にわたり熱心にお聞きいただき、また私どもにとっては大変重要なご指摘もいただきました。本日いただきましたご指摘は、私どもの学校が生き残り、さらに発展するために大変重要な宝物のようなものではないかと思っています。いただきましたご意見やご指摘につきましては、できるだけフォローしまして、来年はぜひ（指摘事項一部未達成状況を示す）三角印が少なくなるように頑張っていきたいと思います。

また、今日は先生方におかれましては、日曜日ということで、いろいろとご予定もあったのではないかと思います。私どもの拙いプレゼンテーションに長時間付き合ってくださいましたことを、本当に心から感謝申し上げます。

先生方には、まだまだこれからいろいろご指導、ご鞭撻をお願いすることがあるかと思いますが、今後ともどうぞよろしくお願ひしたいと思っています。本日は、どうもありがとうございました。

○司会 これをもちまして、「平成 25 年度岐阜女子大学教育課程 外部評価委員会」を終了させていただきます。ありがとうございました。

(了)